

## 校区の実態

### (1) 校区の概要

本校区は、日本三急流の一つである球磨川の下流域南部に位置し、九州山地から流下した土砂による沖積及び先人の干拓により土地形成がなされてきた。したがって、校区の大部分は平坦であり、古代から人々が暮らし、産業を興し、豊かな文化を築き上げてきた。このことは、校区に残る数々の史跡からもうかがい知ることができる。

また、本校区は、西部の国道3号線、北部球磨川沿いの国道219号線、東部山麓の南九州西回り自動車道という基幹主要道に囲まれていることからもわかるとおり、古くから水陸交通の要衝であった。東部には、平成16年3月の九州新幹線新八代・鹿児島中央間の部分開業に伴いJRから営業を引き継いだ肥薩おれんじ鉄道が運行されている。

校区内には八代工業高等学校、清流高等学校、熊本高等専門学校八代キャンパス、中九州短期大学等の教育機関があり、球磨川南部における文教ゾーンを形成している。また、八代市医師会健診センターや市保健センター等の施設もあり、健康・福祉の町としての側面も持つ。

以前は、産業の中心は農業であったが、社会情勢の変化に伴い専業農家は減少し、兼業化・離農化の傾向が見られる。しかし、特に校区の南部には、なお広大な農地が広がり、ハウス園芸やミカン園を営む農家も見られる。一方、前述の主要道沿いには、大規模商店や娯楽施設、事務所、中小工場等が連なり、団地や集合住宅も増え、校区の都市化が進行している。こうした地域の状況は、様々な形で本校の教育にも影響を与えている。

本校は、明治5年（1872）年、校区の有志により私立温知学舎として設立されたことが礎となっている。このことは、本校区に向学の精神が満ち、教育に対しての理解と期待、深い愛情があったことを物語っている。また、「人物時を大切に」という校訓は、昭和32年の制定以来連綿と引き継がれており、本校教育の道標となっている。